

学びを伝える

東京大学大学院 医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻 甘利 昭一郎

気づけば卒後 19 年目になりました。医師を志した当初は脳外科医に憧れていましたが、大学時代から徐々に小児科への関心が芽生え、初期研修で笑顔で退院していく子どもたちを見て強いやりがいを感じ、小児科を専攻することに決めました。

初期・後期ともに公立昭和病院で研修し、小児科は新生児医療の先達である部長のもと、一般病棟と NICU の患者を並行して診療するスタイルでした。継続して新生児を診る中で、詳細な観察、精緻な手技、迅速かつ大胆な判断が求められる新生児医療に惹かれていきました。途中、神奈川県立こども医療センターで短期研修する機会にも恵まれ、複雑な病態の重症児に対応する現場の厳しさと、その中でも児と家族に寄り添い続けるスタッフの姿に大いに刺激を受けました。「自分もこの分野に関わり続けたい」と決意を固めたことを覚えています。

卒後 6 年目からは国立成育医療研究センター（以下、成育）に異動し、以後 11 年間、数多くの新生児やご家族と向き合ってきました。重症例も多く、時に力不足を感じることもありましたが、その経験も含め、多くを学ばせていただきました。そのような中で年次を重ねるにつれ、「この学びを次世代にどう伝えるか」という問いが徐々に強くなっていきました。働き方改革や医療制度の変化により、若手が得られる臨床経験は年々限られています。その中でも、限られた時間と機会の中で質の高い学びを届ける仕組みづくりが、今後ますます重要になると感じています。

私にとって、指導医とともに立ち上げた成育主催の新生児シミュレーションセミナー「NeoSim-J」が教育の世界への入口となりました。セミナーを継続しながら、「医療者教育を一度きちんと学んでおこう」と考え、勤務の傍ら医学教育学修士課程を履修しました。そうこうするうちに、呼吸・循環・神経などではなく「教育」をサブスペシャリティとして、「新生児医療×教育」を軸にキャリアを重ねていくという方向性が見えてきました。

そして 2023 年、一念発起して成育を離れ、博士課程に進学しました。現在は VR 技術を活用した医療者教育の可能性に取り組んでおり、NCPR 訓練アプリの開発や効果検証に励んでいます。40 代で、まだ小学生の子を育てながらの進学には覚悟が必要でしたが、家族の理解と、これまで築いてきたご縁のおかげで何とか乗り越えられています。

初期研修時代からここに至るまで、ロールモデルと言える多くの上司や先輩方に出会い、今でも折に触れて助言や激励をいただく関係を続けられているのは本当に幸運なことだと感じます。少しでも恩返しができるよう、博士課程の後にはそれまでに得た学びを最大限活かして、医療者の教育/学習システムの整備や改善を通じて新生児医療の質向上に貢献していきたいと考えています。もしこの記事を読んで「教育」に興味を持ってくださった方がいたら、皆さん自身や次の世代の学びについて、一緒に考えていけると嬉しいです。

[著者略歴] 甘利 昭一郎（あまり しょういちろう）

神奈川県出身

学歴

2007 年 東京大学 医学部医学科 卒業

2022 年 マーストリヒト大学（オランダ）医学教育学修士課程 修了

2023 年～ 東京大学大学院 医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻 博士課程

職歴

2007 年～2009 年 公立昭和病院 初期臨床研修医

2009 年～2012 年 公立昭和病院 小児科専攻医

2012 年～2014 年 国立成育医療研究センター 新生児科フェロー

2014 年～現在 国立成育医療研究センター 新生児科 医師（2023 年からは非常勤医）

小児科専門医・指導医、周産期専門医（新生児）・指導医、
新生児蘇生法インストラクター、国際認定ラクテーション・コンサルタント

～DEI 推進委員会より～

枠を越えて自分の興味を追い求めるサブスペシャルティ

サブスペシャルティというと、一般的には呼吸・循環・神経などが思い浮かびますが、そうした先入観にとらわれずに「教育」をしたいと考えられた姿勢は、とても示唆に富むものです。つい我々は既存の枠組みに自分を当てはめてしまいがちですが、自らの興味を大切にすることで、こうした自由な発想が生まれるのだと感じさせられます。

このエッセイを読んだあなたも、たとえその興味が従来のサブスペシャルティとは異なるものであっても、自分の興味を尊重し、それを極めていくという選択肢があるのではないのでしょうか。サブスペシャルティは、与えられた選択肢の中から選ぶものではなく、自らの興味、関心事に根ざして切り拓いていくものなのだと思います。その姿勢こそが、これからの医療の多様性を支える力になります！

責任編集

DEI 推進委員会